



実践研究支援事業



小学校において新学習指導要領が全面実施となった本年度。本センターは、鳴門市板東小学校と連携しつつ、「小学校外国語教育における新学習指導要領全面実施を踏まえた指導と評価に関する実践研究支援事業」を進めています。事業内容としては、板東小学校の授業実践（授業設計や指導案・教材の作成等）や評価に関する研究、教員研修へのサポートが主なものです。

板東小学校は、令和3年度に開催される徳島県教育研究会（外国語部会）統一大会の会場校となっており、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を培う小学校外国語教育 ～豊かにかかわり 伝え合い 学び合う 学習の創造～」をテーマに研究を進めておられます。令和2年11月6日には鳴門市大会として、3年生と5年生の授業を公開されました。両学年ともに、地域や学級の実態を踏まえた学級担任主導の授業であり、授業展開や児童の活動の中で、研究の柱となる「言語活動」や「指導と評価の一体化」についての研究の成果を示してくださいました。



【3年生の授業の様子】



【5年生の授業の様子】

全面実施一年目のこれまでを振り返りますと、特に、教科化された高学年では、検定教科書を使用しての授業や評定を伴う評価など、先生方の中には戸惑いが見られ、それらに関するご相談もたくさんいただきました。今後は、益々、板東小学校と連携して実践研究を進めさせていただき、その成果をみなさまに還元できますよう、精一杯努めてまいります。（准教授 佐藤 美智子）



小・中英語教育研修への講師派遣



令和2年6月25日、10月8日、30日の計3回、徳島市論田小学校にお招きいただきました。初回は、先生方と一緒に評価について考えたり、学習指導要領に沿った授業や活動例について実践的に学び合ったりする時間を持ちました。

2回目は、3年生「What do you like?」(Let's Try! Unit 5)の第1時と5年生「Where is your treasure?」(Junior Sunshine Lesson 5)の第5時を、3回目は、3年生の単元最終の授業を参観させていただきました。どの授業も、担任の先生、専科の先生がクラスの実態を考え、教材や指導法に工夫を凝らし、子どもたちが思わず外国語を「聞きたくなる」「話したくなる」ような授業展開がなされていました。

研究協議では、「スモールトーク」、「高学年の書く活動」、「振り返りを中心とした評価のあり方」等、まさしく今課題となっている内容について先生方の生の声を聞くことができました。日々、真摯に授業に取り組まれているからこそ、出てきた課題であると思いました。

コロナ禍にあって、ますます多忙になった学校現場で、校長先生を中心に外国語教育に熱心に取り組まれている先生方の熱意と協力体制、チーム論田の力を感しました。

今後も、小学校外国語学習に携わる先生方のお役に立てるように、私自身も研修を積んでいきたいと思っています。（コーディネーター 竹内 陽子）



令和2年度鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウムを開催して

本年度も鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウムを令和2年10月17日に開催しました。

今回のシンポジウムは、「新しい小学校外国語教育がスタート！～よりよい実践を求めて～」をテーマに、琉球大学名誉教授の大城賢先生による基調講演とともに、パネルディスカッションを通して、新学習指導要領に基づく外国語教育に先進的に取り組んでこられた先生方にそのご報告をいただき、「よりよい実践とするために大切にすべきことは何か」について、参加者の皆さまとともに考えることを主旨としました。

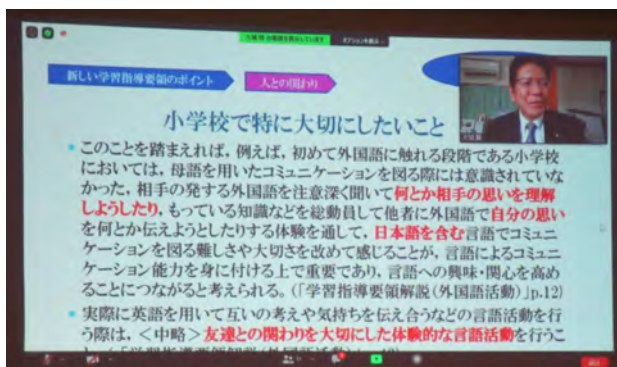
基調講演では、大城賢先生に「学習指導要領が求める言語活動」と題してお話しいただきました。言語活動の再定義と小学校外国語における評価の意味合いについて分かりやすく理解することができました。特に、言語活動を考えるにあたり、外国語は「言葉の学習」であり、お互いの考えや気持ちを伝え合うことや、人と人とをつなぐということを意識する必要があることを学ばせていただきました。

パネルディスカッションでは、徳島県の生比奈小学校の戸村美幸先生、秋田佳世先生、神領小学校の堀井晴美先生、佐那河内小・中学校の段本みのり先生より、新学習指導要領に基づく外国語教育について、実践的な位置から具体的にお話しいただきました。私が最も印象に残ったことは、いずれの実践においても、地域や学校の特色を活かした場面設定が行われ、お互いの考えや気持ちを伝え合う生きた言語活動が行われているということです。また、2つの実践報告から提起された課題（教師の英語使用や評価のあり方など）は、これから私たちがそれぞれの現場に持ち帰り、共通の課題として実践の中で検討し、また、さまざまな機会において議論を積み重ねていくべきものと考えます。

今回のシンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、基調講演をインターネット配信により行い、当日のシンポジウムの模様を動画配信する形で行いました。初めての試みであったにもかかわらず、県内外の現職教員、教育関係者及び学生など100名近くの方々（会場：44名、オンライン：53名）に参加いただきました。心より感謝申し上げます。

本小学校英語教育センターも、本シンポジウムにおいて共有させていただいた貴重なお話やお取り組みをふまえながら、皆さまとともに、小学校外国語教育を盛り立てていきたいと考えております。

（センター所長・教授 山森 直人）



インターネット配信による基調講演を行う
大城 賢 琉球大学名誉教授



フロアとの質疑応答の様子

